

平成25年度第5回小平市図書館協議会要録

- 1 日時 平成26年1月16日(木) 午後2時～4時30分
- 2 会場 中央図書館会議室
- 3 出席者 図書館協議会委員：11人 傍聴者：0名
事務局：中央図書館長、館長補佐兼庶務係長、
花小金井図書館長、調査係長、サービス係長、資料係長、
仲町図書館長、大沼図書館長 計8名

- 4 配付資料 資料は省略させていただきます。

5 議事

(1) 報告事項

① 図書館運営状況について

- ・ 図書館行事等の報告と今後の予定について(資料No.1)

(これまでの報告)

- 1月24日 仲町公民館・仲町図書館愛称募集記念講演会
妹島和世氏 中央図書館
- 12月5日 おたのしみ会(全館) (~24日)
- 12月7日 展示「サイン展」3回シリーズ 中央図書館
(~3月20日予定)
- 1月5日 第34回ふるさとの新聞元旦号展 中央図書館(~9日)
上宿図書館(11日~15日)、大沼図書館(18日~23日)

(今後の予定)

- 1月18日 ブックリサイクル(雑誌) 全館
- 1月23日 特別収集資料展示「チラシ&ポスター展」中央図書館(~2月2日)
津田図書館(2月5日~19日)
- 1月26日 「冬の日図書館員」 中央・喜平・上宿図書館
- 2月22日 ブックリサイクル(一般・児童) 全館
- 3月1日 障がい者サービス講演会「デイジー図書のスゝメ」
荒川明宏氏 中央図書館
- 3月6日、13日 民話講座「チェコの絵本と暮らし」
木村侑子氏 中央図書館

- ・ 平成25年度月別貸出状況について(資料No.2)

12月末現在の資料貸出数は昨年同時期より約2,700点減少している。新規登録者数、貸出者数は微増となっている。館別貸出者数で、中央図書館が12,227人減とな

っているが、昨年度はシステムの入れ替えや仲町図書館利用者が中央図書館を利用したことによる増加傾向あったが、それが落ち着き、今年度は例年に戻りつつあると考えている。

- ・ 広域利用市別貸出状況について（資料No.3）

例年どおり、貸出者数は9割が小平市民になっている。広域の利用は減少しているが、「他市」の在勤、在学の貸出資料数については増加している。

- ・ 国分寺市との相互利用状況について（資料No.4）

平成25年1月1日から相互利用を開始し12月31日までの統計となっている。小平市民が国分寺市図書館を利用する方が約2倍となっている。国分寺市民は館別でみると駐車場スペースの多い中央図書館を利用し、小平市民は駅に近い本多図書館に利用が集中している。今後、国分寺市と定期的に会議を持ちながら運営等について考えていく。

② 市議会12月定例会について

図書館に関する一般質問は2件あり、1件目は、「読書の力で子どもたちの心を育もう」の中で、第2次子ども読書活動推進計画において、子どもたちの読書活動の支援はどう進み、学校図書館協力員の配置、絵本リストの活用、また次期計画策定に向けたブックスタート事業の検討についての3点質問があった。これに対して、読書活動の支援としては、学校図書館協力員が全小・中学校に配置されたことにより、児童・生徒の読書活動が活性化し、貸出冊数も伸びている。図書館も、学級文庫用図書の貸出、調べ学習用図書の配送、学校図書館相談員の巡回、学校図書館協力員の研修などの支援を行っている。学校図書館協力員の配置は週3日、1日5.5時間、午前10時から午後4時30分まで、あるいは午前10時30分から午後5時までの時間帯となっている。絵本のリストについては、毎月3・4か月児健診時に図書館職員が出向き、絵本や「絵本のへや」の紹介と赤ちゃん絵本のリストを配布している。「絵本のへや」の利用も増加しており、一定の効果があると認識している。ブックスタートは、第3次子ども読書活動推進計画の中で検討していく予定と答弁した。

2件目は、「いつでも、どこでも、誰でもICT情報の受発信を行えるための環境整備について」の中で、中央公民館、図書館のワイファイ環境整備についての質問があった。これに対してワイファイ環境は、施設の利便性を向上させるもので利用も増加していると認識しているが、通信費などの経済的負担等、今後も検討をしていく必要があると答弁した。

③ ふるさとの新聞元旦号展について

今年度で34回目。62紙に依頼し57紙の寄贈があった。中央、上宿、大沼図書館で開催する。

④ 第3次小平市子ども読書活動推進計画策定の基本方針について（資料No.5）

第2次の計画が26年度末に終了するため、次期の第3次の計画を策定するため基本方針を定めた。計画対象期間は、平成27年度から平成31年度までの5年間。計画策定体制は、

図書館協議会で広く専門的な意見を伺い、計画案を検討していくことが基本となる。素案段階では市報やホームページ等により市民から広く意見募集を行う。また、庁内関係課で構成する子ども読書活動推進計画検討委員会で計画案の調整を行う。

なお、25年度中に、子どもの読書環境等を把握するためのアンケートにより、実態調査を実施し基礎資料とする。調査対象は、市内幼稚園、保育園、小・中・高等学校の児童・生徒等とする予定である。

⑤ 仲町公民館・仲町図書館改築工事の進捗状況及び愛称募集の応募状況について

市ホームページのトピックスに改築工事の進捗状況を随時掲載しており、現在、地下部分の工事が順調に進んでいる。2月には、1階部分へ移る予定である。

愛称募集期間は平成25年11月18日から12月27日までとし、市ホームページ、市報、市内公共施設、市内駅構内等で広くPRした。応募は全国から778作品があった。応募期間中、愛称募集のキャンペーンとして、開催した妹島和世氏の講演会はたいへん盛況であった。今後、2回の選考委員会を経て、最優秀賞1点、優秀賞3点を決定し、平成26年4月20号の市報で発表する予定である。なお、採用された最優秀賞作品は、新仲町公民館・図書館の愛称として広く活用する予定である。

<報告事項についての質疑・応答>

委員：第3次小平市子ども読書活動推計画について、5年前の第2次の計画では、中央図書館利用者だけにアンケートを行ったのに対して、今回は全市民を対象として実施するのは良いこと。市内公立全校で実施するのか。

事務局：市内小・中学校全校の小学4年生、中学2年生の任意1クラスを考えている。昨年策定した教育振興基本計画と同様に、アンケートは1,500から2,000人が一つの基本となるためこのような形で実施したい。

委員：最近、放課後に児童・生徒が市立図書館に来ることが少ないと感じている。学校図書館に学校図書館協力員が入り、とても良くなっている。アンケートの「本の入手先」に、学校図書館と市立図書館を分けて設問に入れてはどうか。

事務局：前回の図書館協議会の時点では分けていたが、「図書館」にまとめた経緯があるが、再度検討する。

委員：小学1・2年生は、絵本を借りていくという印象があるが、小学4年生と学年が高くなると、様子が変わるのではないか。

事務局：幼稚園、保育園にも協力してもらうので、0歳から5歳くらいは把握ができるため、少し上の学年ということから、小学4年生、中学2年生、高校2年生とした。

委員：小・中学校の図書館は規模が小さい。中学校の場合、1年生はよく利用しているが、2年生以降は、新しい本があまりない場合はなかなか利用されない。中学1年、高校1年で利用があっても、中学3年、高校3年でそんなに利用が無かったりすることを考慮に入れた方が良い。アンケートに関して、就学用の問3の回答で、図書館、図書室という選択肢にすれば良いのでは。また、問17で、「勉強や部活動で時間がない」としているが、

ゲーム等の理由の場合もあり、単に「時間がない」とした方が良い。

事務局：最初はゲームという選択肢もあった。ご意見を反映させて作成したい。

委員：用語の統一を図ったほうが良い。

委員：就学用で、「最後に読んだ本は何ですか」とあるが、この意図は何か。

事務局：一番記憶に残っている最後に読んだ本という意味で、現在興味のある本、読みたいと思っ
た本というのはどんなジャンルかという意図がある。

委員：「最後に～」ではなく「好きな本のタイトルは何ですか」とした方が良い。好きな作家は
良いが、何を読んだかとなるとプライバシーなど微妙な問題がある。

委員：未就学の問4の質問で、「図書館を利用することがあるか」という質問で、保育園は時間
が無いと回答すると思う。図書館に対して希望があるかというような項目を作ったらどう
か。要望が出てくるかもしれない。

事務局：計画策定のための実態調査で、利用者傾向を把握するためであり、どういう施策を展開し
ていくかのために行うものである。記述式になると、どう回答を活かせるか、難しいところ
であり、選択肢の形式にした。第2次計画は、学校との連携の部分で、成果を上げては
いるが、実態調査をして、きちんと把握する必要がある。

委員：実現可能な要望が出てくれば、それを取り上げて行けば良いと考える。

委員：第3次計画に検討するというブックスタートに関しては、未就学の質問11、12、13
で、多くの方は「活用したことがない」と回答するのではないかと。「おすすめ本を活用す
る」という表現ではなく、「ご存知ですか」とした方が良い。

委員：もらって読んだというだけでも、こちら側の意図する、役に立っているということになる
のではないかと。

事務局：ブックスタートの実施には是非があるため、実態調査の中で把握したい。また、最近、セ
カンドブックスタートという一次をフォローする、対象年齢を上げて行うところも増えて
きているので、慎重に客観的に判断したい。

委員：就学用は、小学生から高校生まで同じ質問になるのか。

事務局：最後のティーンズコーナーについては、中・高校生のみ回答を求める。

委員：小平市図書館だよりNo.69で、マンガ本は借りられますかという問いがあり、小平市の図
書館ではマンガ本の収集を行っていないため、他の図書館から借りることはできないと書
いてある。利用側から考えると、小平に無いから他市の図書館から借りられるという理屈
になるのではないかと。

事務局：小平市に所蔵のない本は、一般的には他から取り寄せて対応しているが、小平市の収集方
針に無いものは貸出することができないため、他の図書館から借りることもできないこと
となる。小平市はマンガの蔵書はないが、他市では特定のマンガを収集しているところも
ある。例えば、調布市は、水木しげるさんの出身地であることからマンガの蔵書がある。
他市でも有名な手塚治の物は取り揃えているが相互協力の貸出外にしているところもあ
る。マンガ資料を持ってはいるが、無くなる恐れや貸出の余裕もないことから、他市には
貸さないというところが大半である。

委員：図書館の行事の中で、おたのしみ会の参加人数が記載されているが、花小金井図書館は月

別貸出数で児童は約5万8千冊で2番目に対し、今回のおたのしみ会の参加人数が35名と少ないのは何か理由があるのか。

事務局：おはなし会の部屋が狭かったこともあり、保護者が一緒になくても大丈夫なお子さんの参加とした。他館は、親子連れが一緒に入っているところもある。次回は、もう少し広い部屋を確保して親子一緒に参加できるように考えている。

委員：参加人数の半分は保護者か。

事務局：津田図書館については、スケジュールが合ったため保育園の一つのクラスが参加している。中央図書館は、3階の視聴覚室を使用するので、保護者も一緒に入ってもらっている。

委員：上宿図書館では上宿小学校におたのしみ会の案内を送り、1、2年生が放課後たくさん来ていた。

事務局：おたのしみ会の広報や会場については、館ごとに工夫し決めている。なお、今回の報告資料は大人、子どもを含んだ総人数となっている。

委員：津田図書館の人数は多いが、どこで実施したのか。

事務局：津田公民館のホールで実施した。

委員：アンケートについては、これからもいろいろなアンケートを作ると思うが、質問事項や選択肢、回答などをよく考えて作った方がよい。

委員：仲町図書館は学校図書館の連携推進館になるとのことだが、具体的な話しはまだなのか。

事務局：これから具体的な協議に入るところなので、もうしばらくお待ちいただきたい。ご意見等あれば、お願いしたい。

委員：実務者と設計者、工事業者が話し合っ、カウンターや本棚をどこに置くなど、実務者が調整しないと機能的なものができない。一番大事な問題点だと思う。

事務局：設計事務所の担当者との打合せは頻繁に行っている。図書館は、運営する立場で機能的なものを、設計者はデザイン上の美しさなど、どちらを優先させるか争点は常にあるので、慎重に協議していきたい。カウンター前や書架の配置等はおおむね決まってきた。今後は開館時間や休館日をどうするのか、職員体制等、公民館と調整しながら決めていくことになるので、図書館協議会の中でも意見をいただくことになる。

委員：前回の図書館評価については、図書館の実質に対する評価ではなかった。図書館の質であれば、専門職の司書が何人いてどんな仕事をしているかについての評価となった。図書館側では、理想や本質などに対する評価を重要と考えて推進してほしい。

事務局：行政評価は、予算の事業ごとに評価することになっている。

委員：図書館の本質にかかる評価は求めているということだが、本当は評価しないといけないと思う。

委員：仲町図書館の予算が2、3月で決まるとのことだが、例えば学校図書館との連携の中心館として、専門職の配置、端末の数、学校図書館とのネットワークなどを具体的にお願いしたい。

事務局：基本的には、中央図書館にある学校図書館との連携の機能が仲町図書館に移ることになる。仲町図書館の中で、どのように運営していくのか、機能的な面、地区館との連携などまだこれからの検討課題になる。

委員：中央図書館から移す意味は何か。

事務局：基本方針をどう展開していくかということになり、中央図書館と連携を取りながら、効率的に機能させることになる。

委員：担当者の司書資格についてはどうか。

事務局：来年度後半にオープンなので、そのようなことも考慮していかないといけないが、来年度には入ってからとなる。

委員：予算に絡んでくるのか。

事務局：人員配置なので、いつから配置するのかなど、予算に関係してくる。

委員：人員は、図書館の中で何人と決まっていると思うが、その中で動かすのか、図書館に関わる定数は同じか、今の人数にプラス α が加わっていくのか。

事務局：仲町図書館の今の定数は館長だけだが、人数的には各地区館と同等となると思われる。

委員：休館前の仲町図書館の人数となるのか。

事務局：公民館、図書館の複合施設となるので、公民館、図書館の機能をどう位置付けるか、仲町特有の課題がある。それに基づいて職員を配置することになる。複合施設ならではの特色を持たせるなども考えていく必要がある。

委員：当初公民館、図書館の事務室は一緒とのことだったが、事務室は別か。

事務局：図書館の事務室及び作業的スペースは地下になる。1階は雑誌を配置し、本の返却の機能があるので、共用の部分となり、そこが複合施設の特色となる。

委員：ワイファイに絡んだ予算の要求はされているのか。端末の数は決まっていると思うが、ワイファイがあれば、利用者は端末を持ち込めばよいので、そのあたりはどのように進んでいるのか。

事務局：ワイファイの活用については、小平市の公共施設の中でどのように使っていくのか、はっきりと決まっていない。ある程度対応できるようにするが、開館してすぐ使えるかということについては、検討していかなければならない。

委員：スマートフォンが普及しているので、それぞれのデータ通信の回線は混み合っていて、ワイファイをいろいろな所に置いてほしいという状態になっている。タイミングを逃すと補助等が無くなると思うが、公衆無線ラン的な機器に関して、格安で設置できることや、通信回線の一部を負担するなどがあり、地下鉄など設置し始めているので、そういうものを活用できないか調べておくのもよい。

事務局：今後も研究していきたい。

委員：図書館で本を見ながら、スマートフォンなどで調べる若者も増えているので、ワイファイがあると、また今までにない利用ができてくる。

委員：書架の配置で照明との関連は考えて欲しい。建てた時に照明を区画で決めてしまい、後から書架に蛍光灯をつけることがないように、図書館側で使い勝手を考えて検証しながら進めてほしい。

委員：地下と3階までは本を運ぶ専用のエレベーターがあるのか。

事務局：エレベーターは一般の方と一緒に使うことになる。職員専用や本を運ぶ専用のものはない。予算的に難しかった。

委員：元の仲町公民館・仲町図書館の職員数で、夜間開館の人員の対応はできるのか。

事務局：地区館では現在、週2回火・水曜日に午後7時まで夜間開館しており、それを例えば午後8時まで延ばし、勤務時間を繰り下げるという選択肢もあるかもしれない。現行の人員で行うのであれば、勤務時間を繰り下げるのが一番現実的と考えるが、職員の休憩時間の問題等考えなければいけない。現状、早番・遅番勤務があり、遅番勤務は午前10時30分から午後7時15分まで勤務となっているので、それを午前11時30分から午後8時15分までとするということも考えられる。2班に分かれて週1回の遅番勤務という基本的な形態を変えることは難しい。

委員：レファレンスをする人は、職員ではなく別の人を雇うのか。

事務局：レファレンスは基本的に職員が行う。

委員：2階、3階にもレファレンス担当を配置するのか。

事務局：基本的に地区館なので参考室はないが、職員が対応する。

委員：職員が帰ってしまうとレファレンスはできないということか。

事務局：職員は常にいるという形になっている。全員が司書の資格を持っているわけではないが、司書講習や図書館でのレファレンス研修を実施してスキルアップを図っている。

委員：地区館は夕方職員がいないように思う。

事務局：交代でカウンターに入っている。半数勤務は土、日曜日になるが、カウンターの人数は変えてない。内部事務以外はカウンター業務に対応できるような人数配置をとっている。

委員：仲町図書館は自動貸出機が入るので、貸出事務での忙しさは、解消される可能性があるのか。西東京市は自動貸出機があり、カウンターでの貸出返却の負担は圧倒的に減少している気がする。

委員：午後8時まで開館していても実際の利用者はあまりいないと思う。

事務局：どのような形で開館時間の延長を実施するかは、慎重に考えていく必要がある。近隣市では、午後8時まで開館しているところが多いので、小平は午後7時まででよいのかということもある。また、図書館の運営を考えていく上で、ひとつは指定管理者制度ということなどを考えていかなければならない。指定管理者制度にすれば、開館時間が延長できるという利点があるが、図書館機能として長く開館していればよいのかということもある。図書館サービスをどのようにやっていくか、開館時間の延長だけではなく、どのように活かしていくかを考えていく。

委員：開館時間延長が単なるパフォーマンスにならないければよい。

委員：時間延長よりも、要望が強いのは365日開館だと思う。もちろん図書の整理日等あるので、一斉に休むのではなく、どこかの館は必ず開いているというのが、傾向としてあるのではないか。

事務局：小平市も祝日開館までは実施している。蔵書点検期間はどこかの館は開館しているというようなことで需要にも答えている。全日開館は、人力的な課題等もある。

委員：開館時間延長も仲町図書館が実施するのなら、一斉に実施するというのではなく、よく傾向を見ながらお願いしたい。

事務局：変則勤務なため、全職員が集まるのが難しい。現在、第3木曜日を休館しているが、職

員の研修会などにあて、休館日を有効に活用することが大切と考えている。

委員：午後6時以降の来館者数は統計により効果等を検証できるのではないか。

委員：花小金井図書館は駅を降りてすぐの立地なので、遅くまで開けて欲しい。仲町図書館も比較的駅から近いのでということもある。統計と絡めて考えてほしい。

委員：予約本を受取る窓口が一か所遅くまで開いていることはよいと思う。

事務局：仲町図書館は夜間貸出ロッカーを設置する予定で、貸出処理をして夜中でも外から受取れる。

委員：仲町図書館は距離的に小平の中心に近い場所か。

事務局：青梅街道駅、小平駅から歩いて10分程度の距離にある。

委員：国分寺市との利用の中で、国分寺市と小平市はどちらの人口が多いのか。

事務局：平成25年4月1日現在の人口で、小平市が約18万5千人、国分寺が約11万8千人。生活圏として、小平市民は、国分寺駅を利用するが、国分寺市民は小平が生活圏ではない。このことは、今回の相互利用で一番の争点だった。

委員：小平の南端には図書館が無いのが大きいと思う。

事務局：国分寺市、多摩六都の図書館など、さらなる広域的な連携ができたことになった。ここで立川市が国立市と相互利用を始めるというニュースもある。

(2) 協議事項

なし。